

2022年度 ペット用品産業実態調査

本調査は、「ペットフード安全法」が2009年に施行され、ペット産業動向への関心が益々高まっていることから、ペット用品産業の出荷動向等の実態を把握し、今後のペット用品産業の取り組み施策への資料として活用するために実施しています。

また、本調査から求められたペット用品の生産・出荷金額や流通実態につきましては、ペット用品業界のみならず、経済産業省等の関係省庁でも行政施策の基礎資料として活用されております。

<調査方法>

コロナ禍の2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)と、2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)の2年間の出荷金額を、ペット用品カテゴリ全てを対象にアンケート調査を行いました。今回も犬用・猫用のジャーキー等のスナックを除外しました。アンケート調査は、当工業会会員企業を含めてペット用品関連メーカー様106社にご協力をいただきました。

	2021年度出荷金額	2022年度出荷金額	前年比	前回 2021年度回答社数	今回 2022年度回答社数
犬用品	56,023百万円	60,162百万円	107.4%	70社	76社
猫用品	41,674百万円	45,771百万円	109.8%	56社	51社
観賞魚用品	20,880百万円	19,917百万円	95.4%	23社	21社
小鳥用品	4,347百万円	4,254百万円	97.8%	14社	11社
小動物用品	10,723百万円	10,788百万円	100.6%	32社	27社
昆虫用品	1,613百万円	1,562百万円	96.8%	11社	9社
爬虫類用品	1,803百万円	1,828百万円	101.4%	9社	7社
合 計	137,063百万円	144,282百万円	105.3%	103社	106社

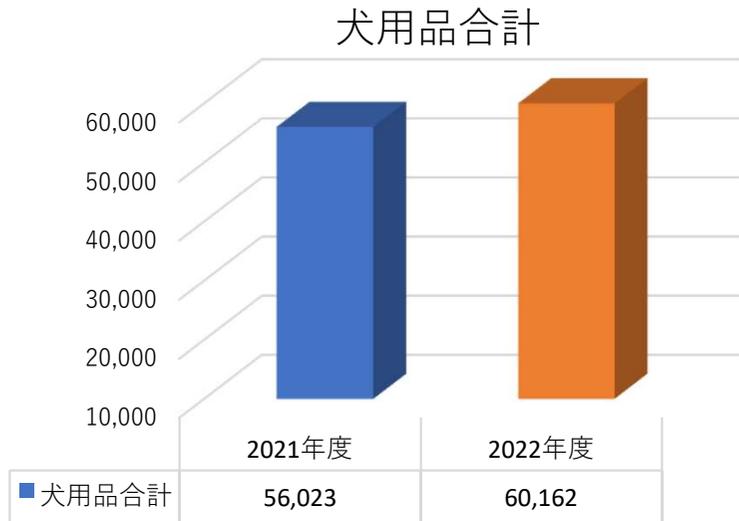
※ 前年比は回答社数に変動があるため、2021年と2022年の2年間の統計調査により算出しています。

※ 2021年度、2022年度2ヶ年を通じてコロナの影響が顕著に表れた結果となりました。

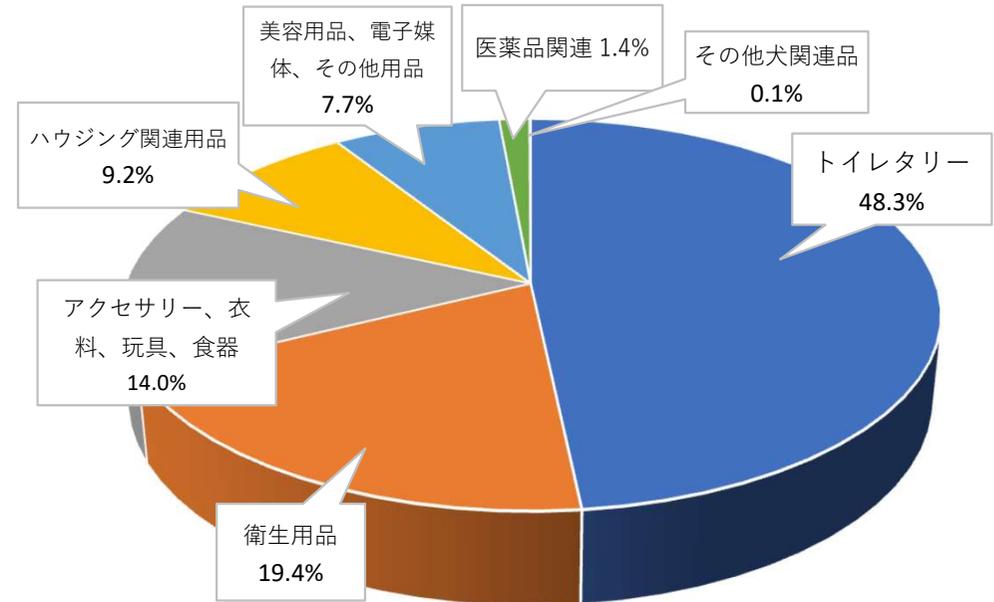
犬用品に関する統計結果 集計：76社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

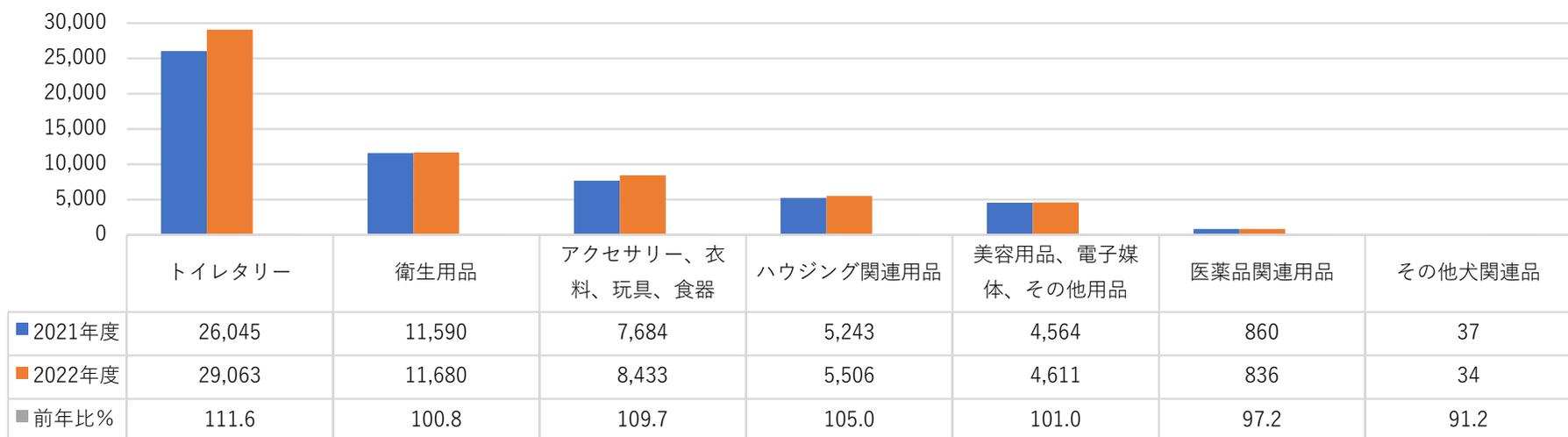
前年度比: **107.4%**



②2022年度 カテゴリー構成



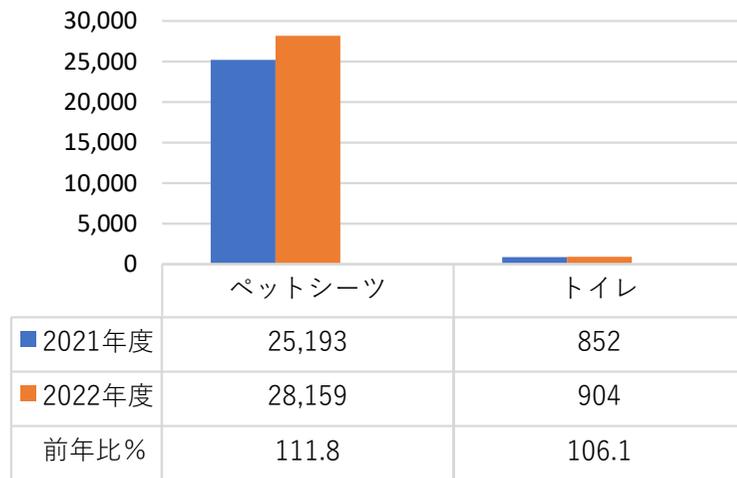
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



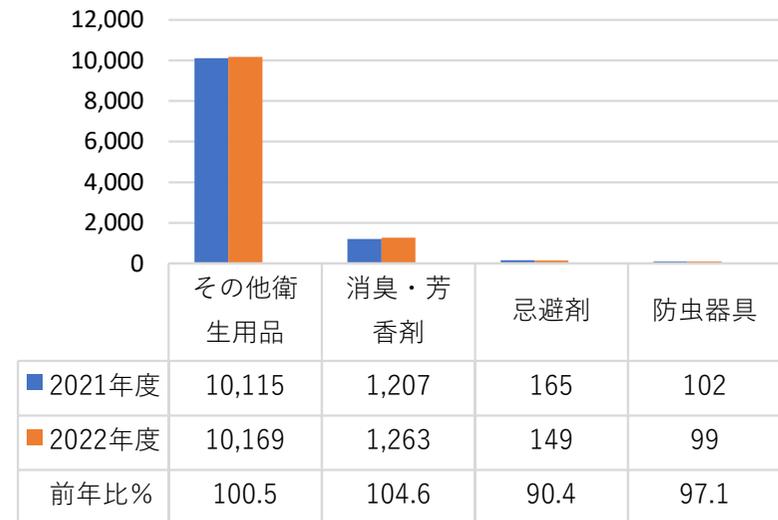
犬用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

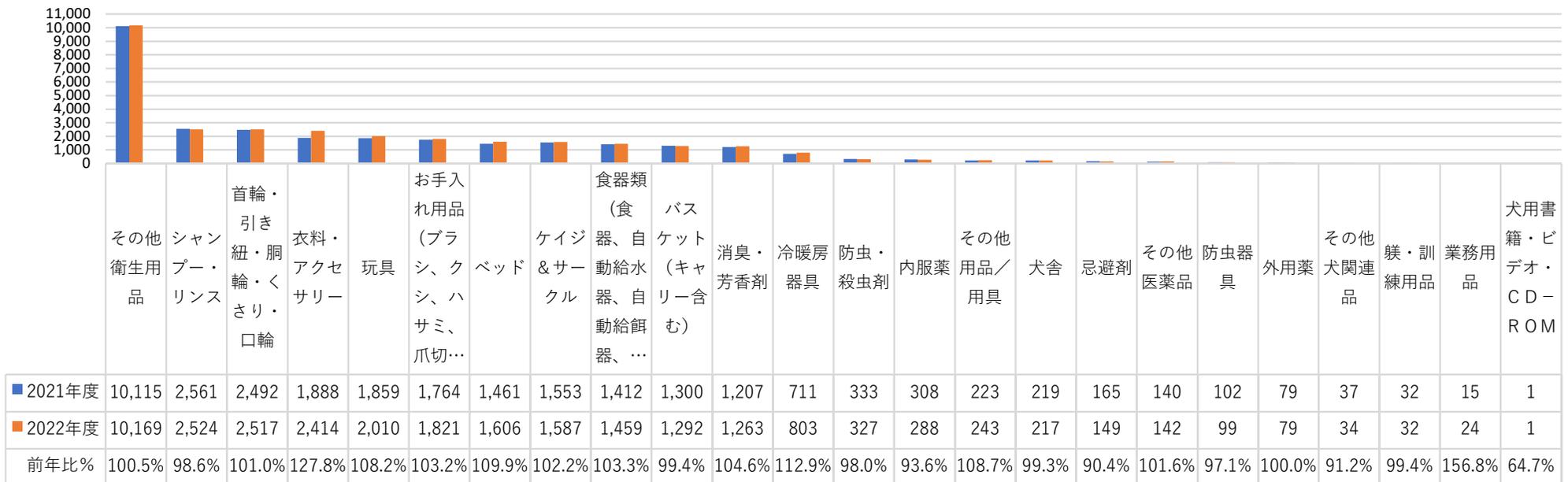
◇トイレタリー関連用品



◇その他用品2



◇その他用品1



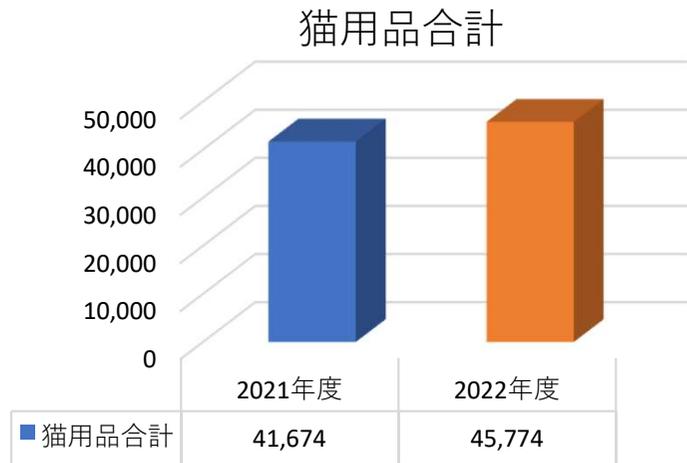
※ ペットシートは単価アップの影響もあり2桁伸長し数字牽引している。

※ リアル店舗の玩具、手入れ用品、犬具等の耐久品については、前年割れの傾向が強かったがECではペット用品拡大傾向にあり全体的には伸長していることが伺える。

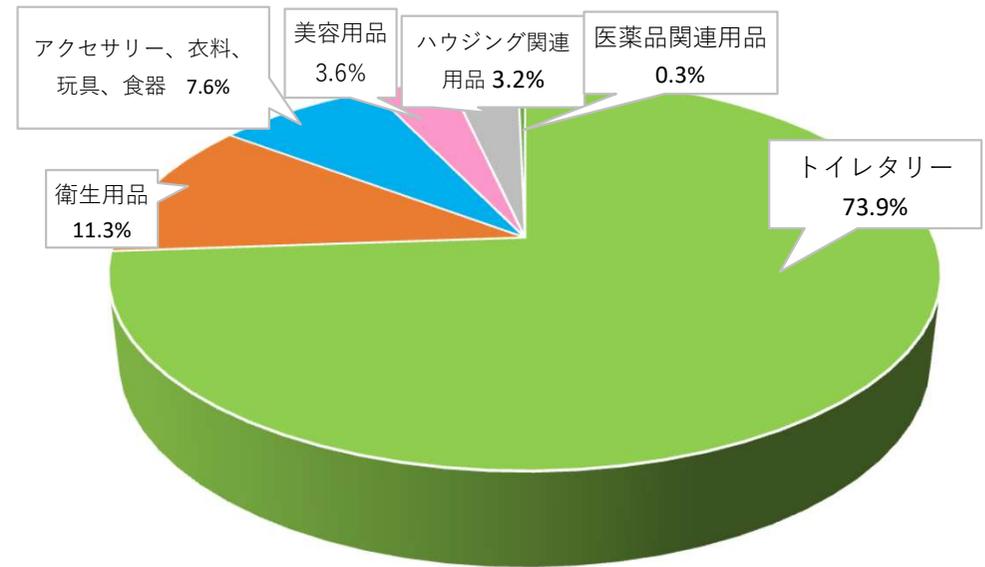
猫用品に関する統計結果 集計:51社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

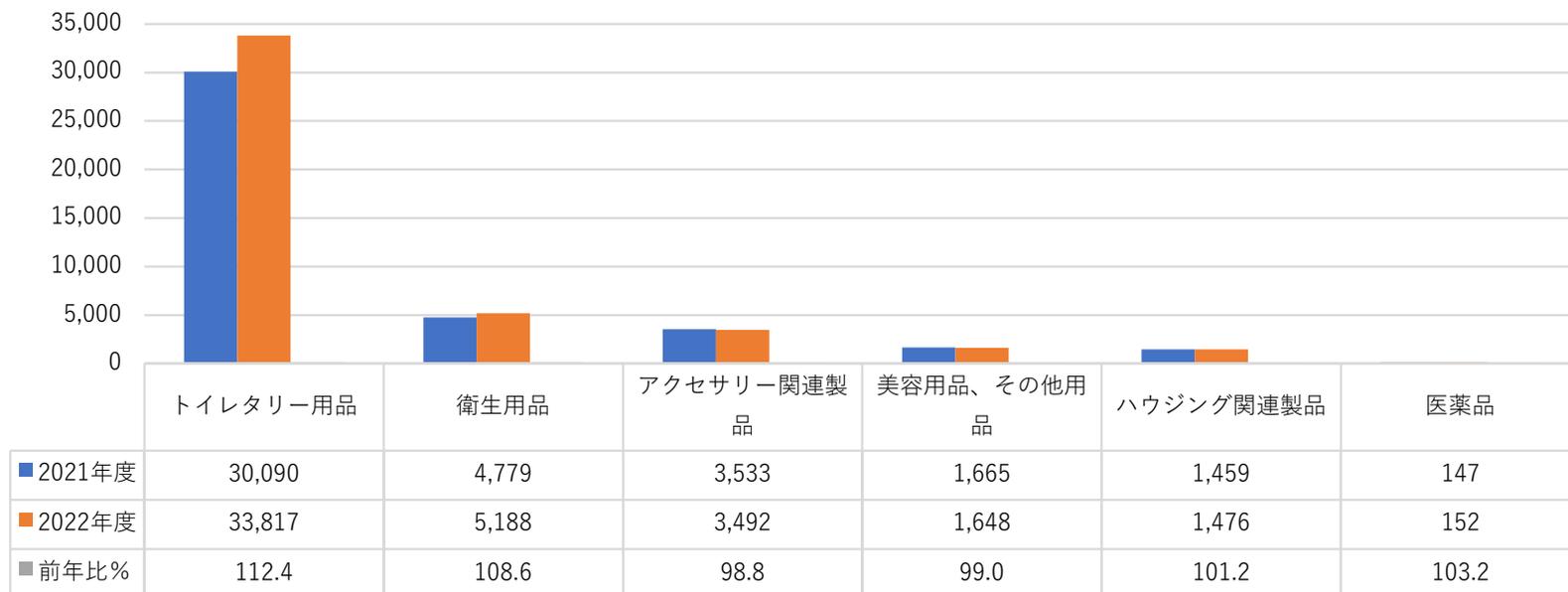
前年度比:109.8%



②2022年度 カテゴリー構成



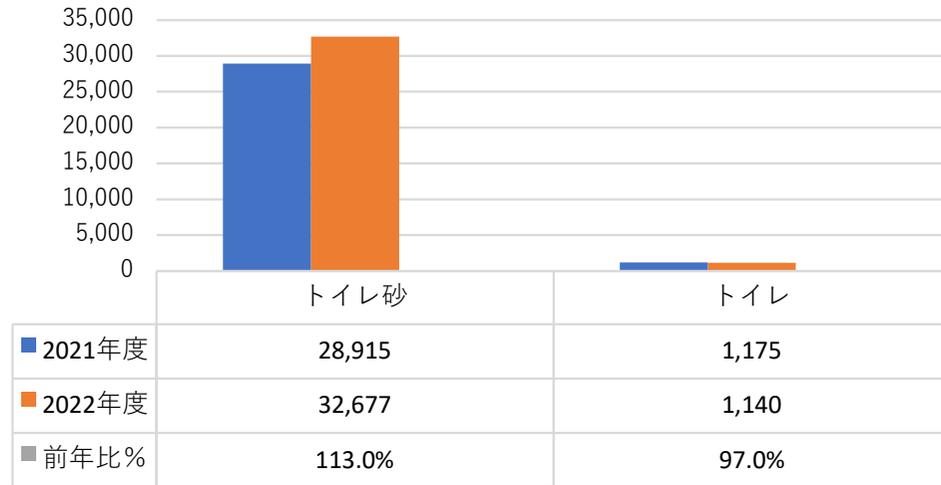
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



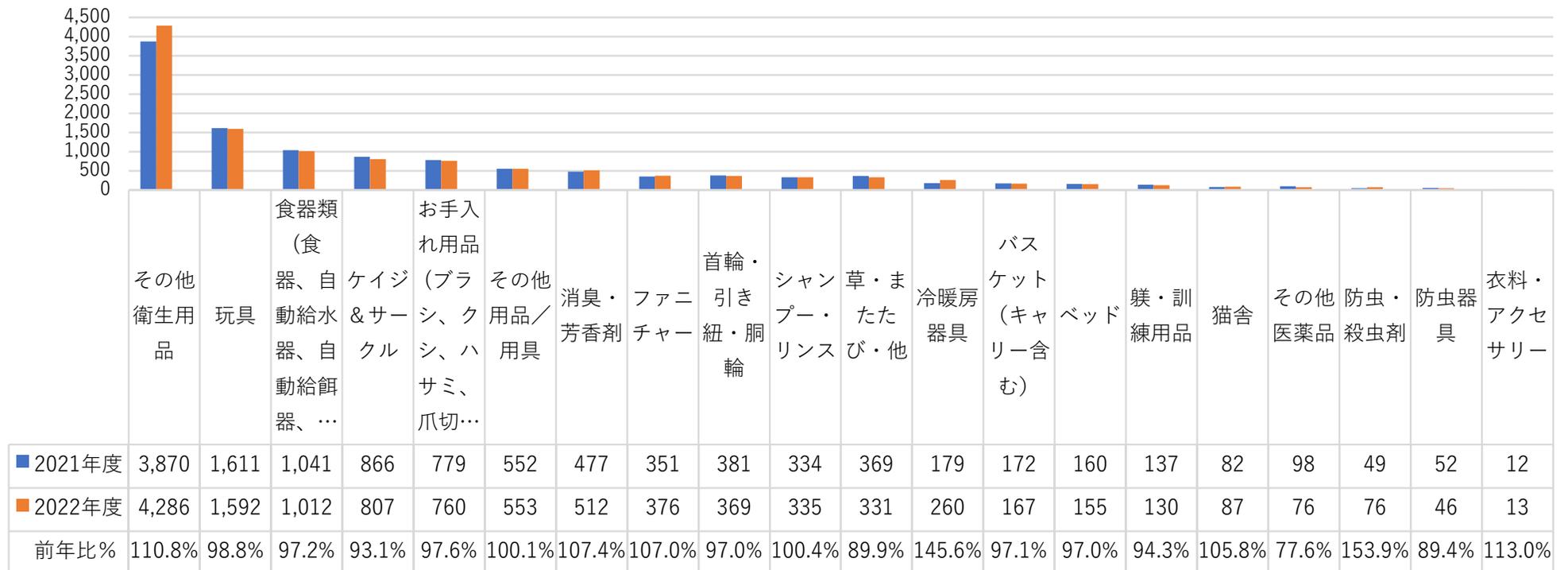
猫用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

◇トイレタリー関連製品



◇その他用品



※ トイレ砂は単価アップの影響もあり2桁伸長し数字牽引している。

※ リアル店舗の玩具、手入れ用品、猫具などの耐久品については、前年割れの傾向が強かったが、ECではペット用品拡大傾向にあり全体的には伸長していることが伺える。

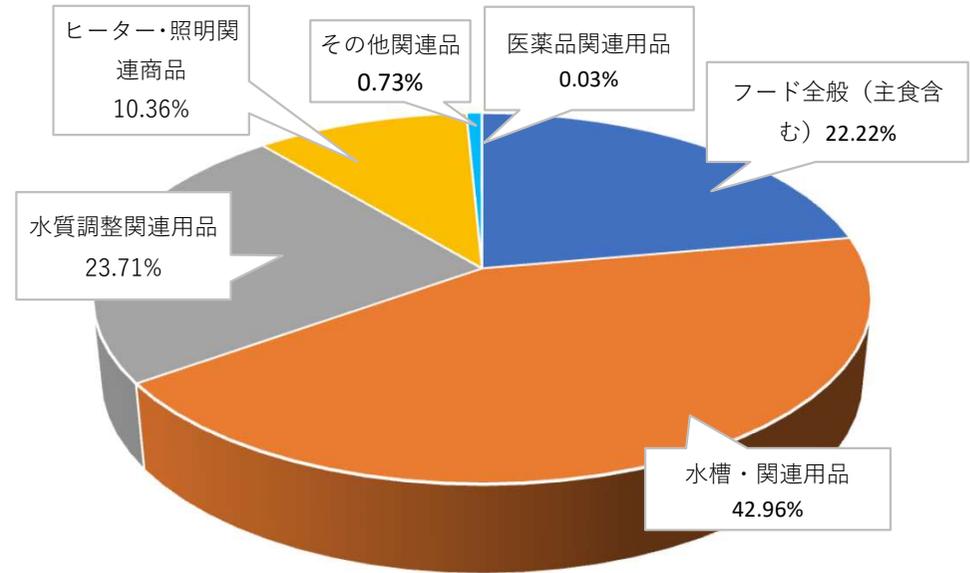
観賞魚用品に関する統計結果 集計:21社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

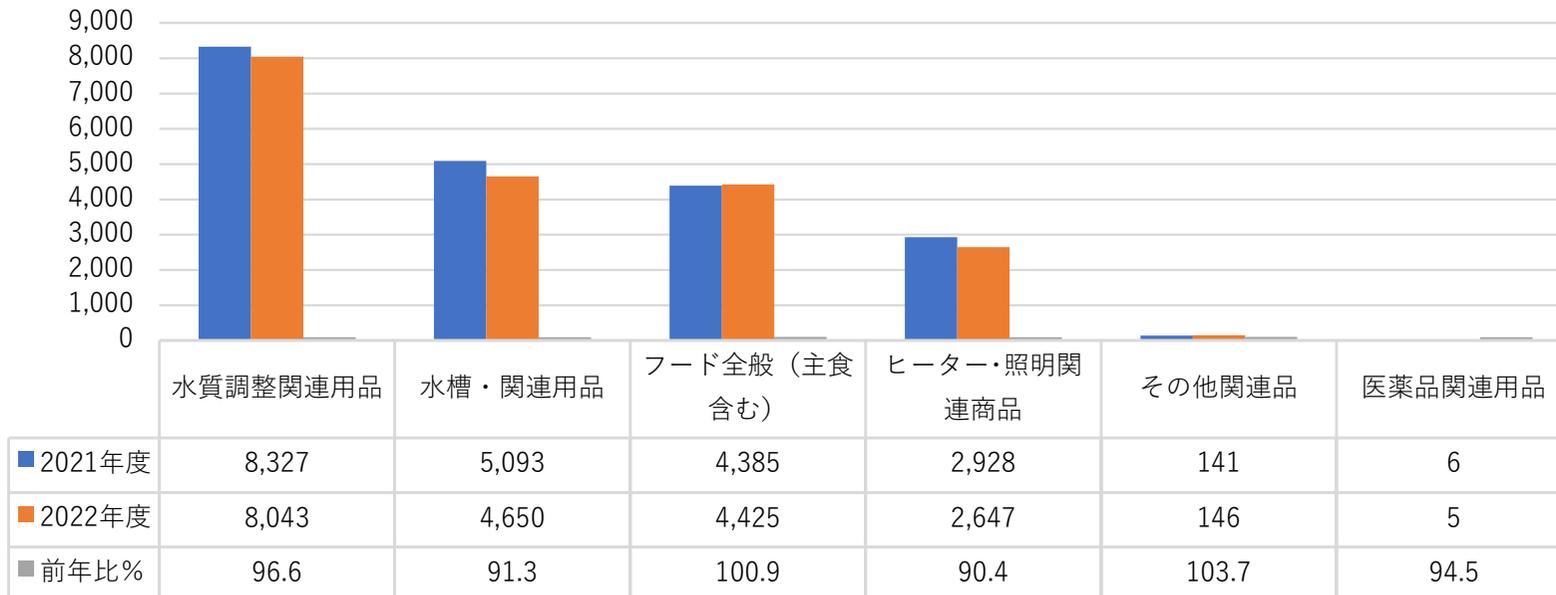
前年度比:95.4%



②2022年度 カテゴリー構成



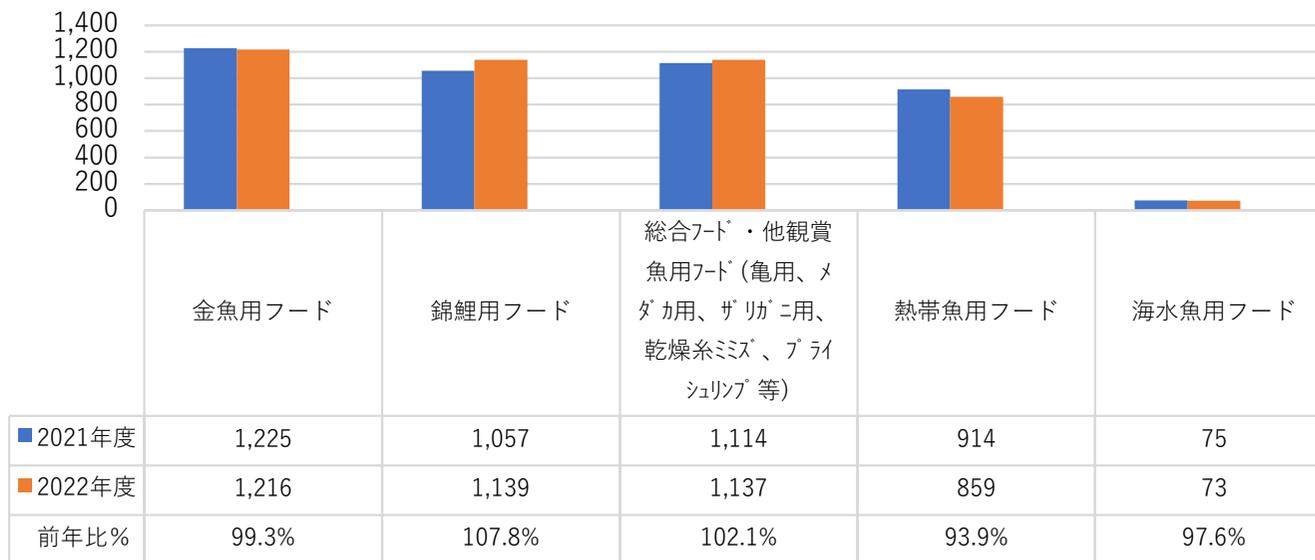
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



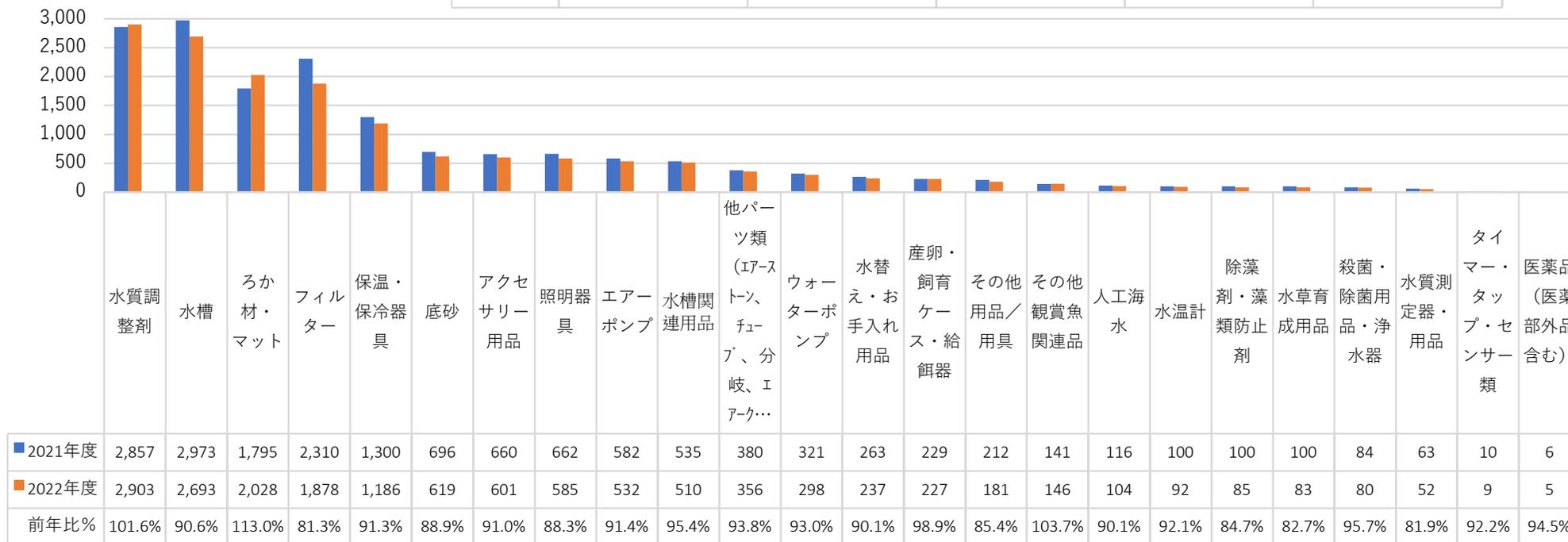
観賞魚用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

◇フード全般



◇その他用品

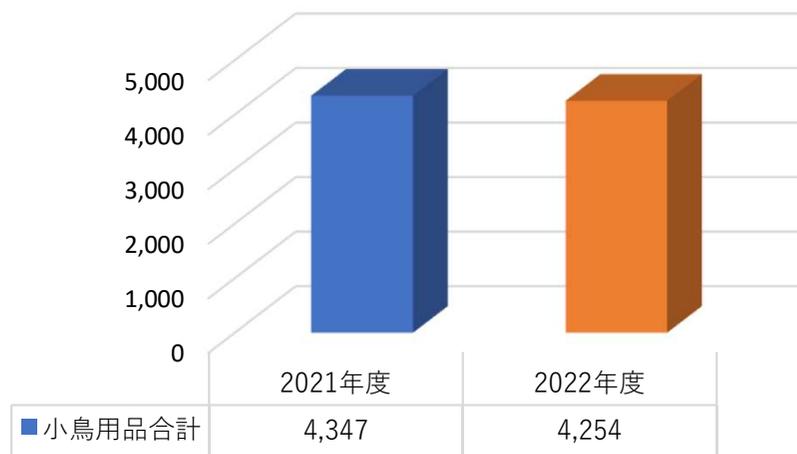


※ 金魚すくいが少しずつ復活してきたものの、巣籠り需要が減少し新規飼育者減。メダカは好調を継続。
 ※ ろか材・マット、水質調整剤は3年連続伸長している。

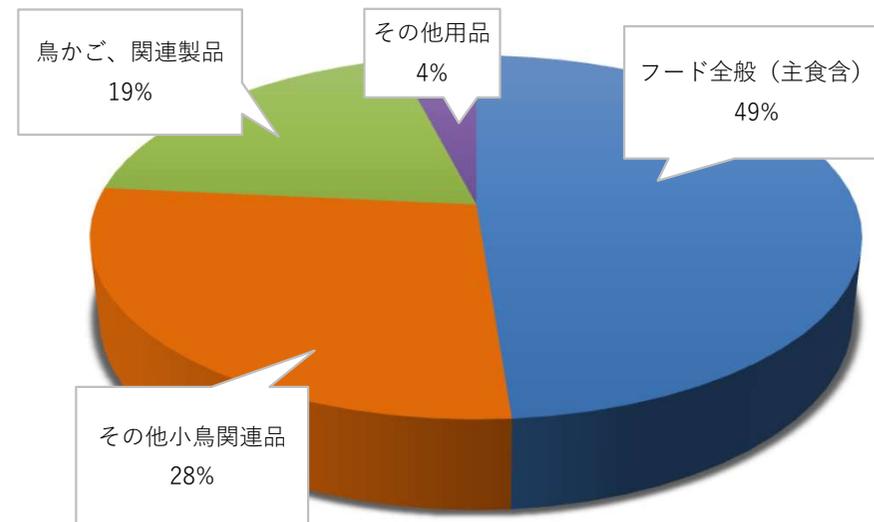
小鳥用品に関する統計結果 集計:11社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

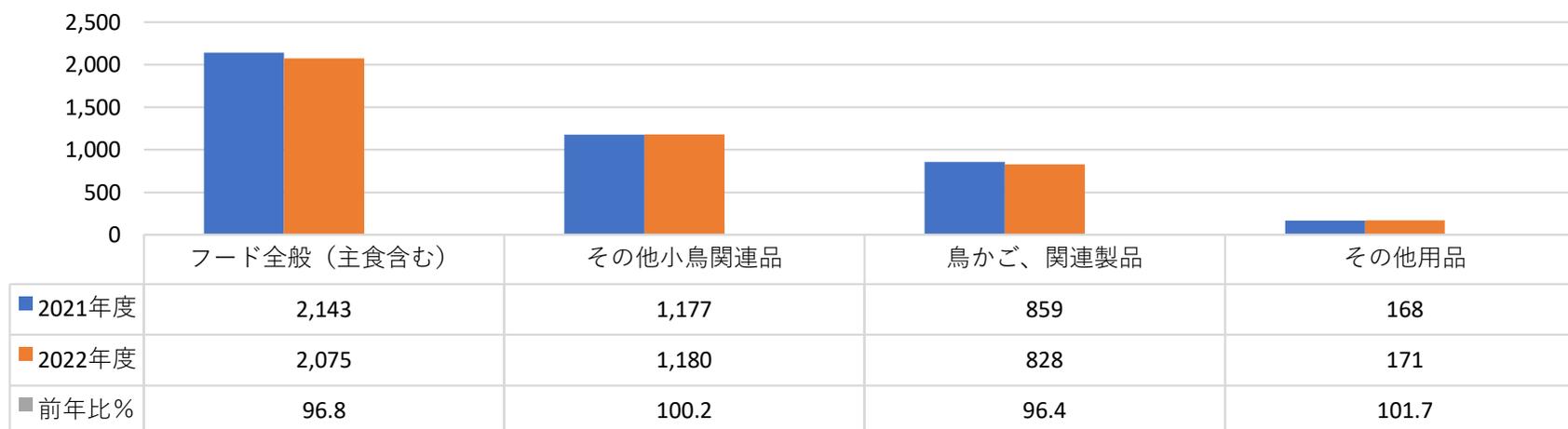
前年度比:97.8%



②2022年度 カテゴリー構成



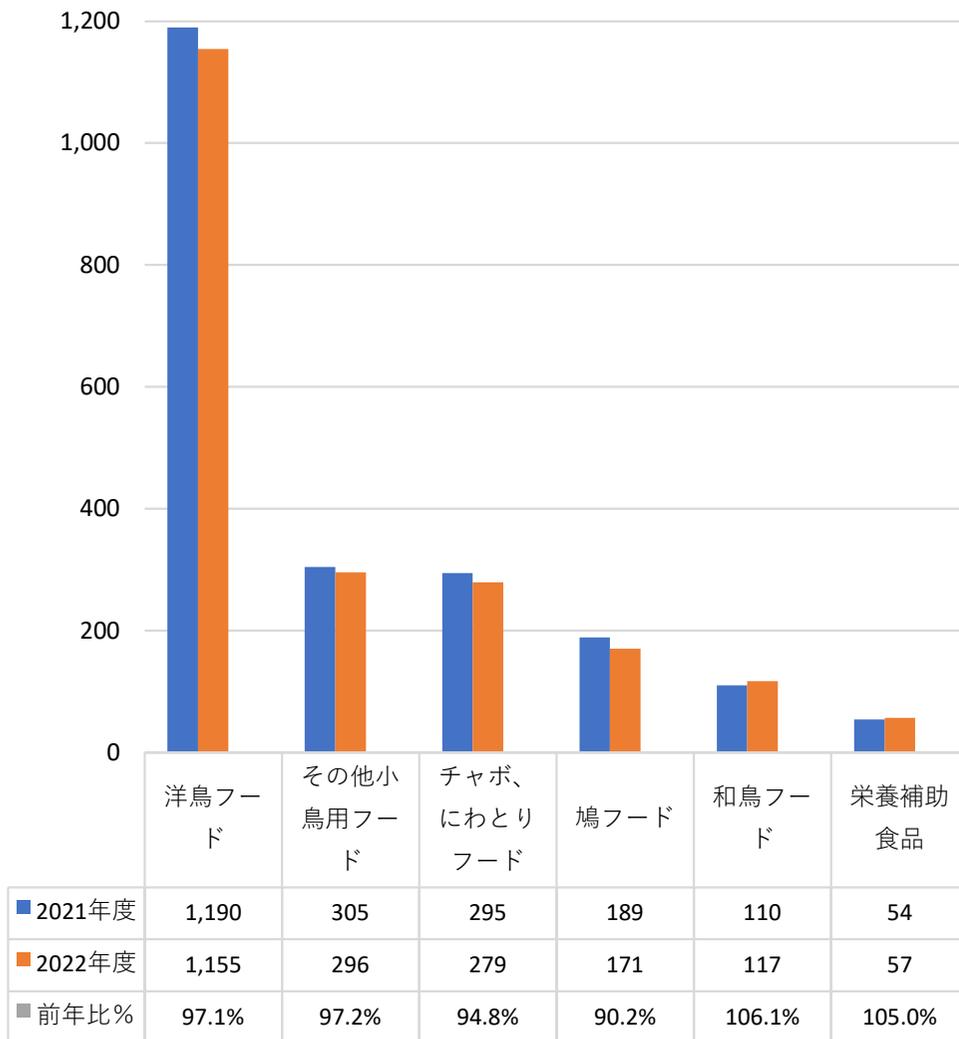
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



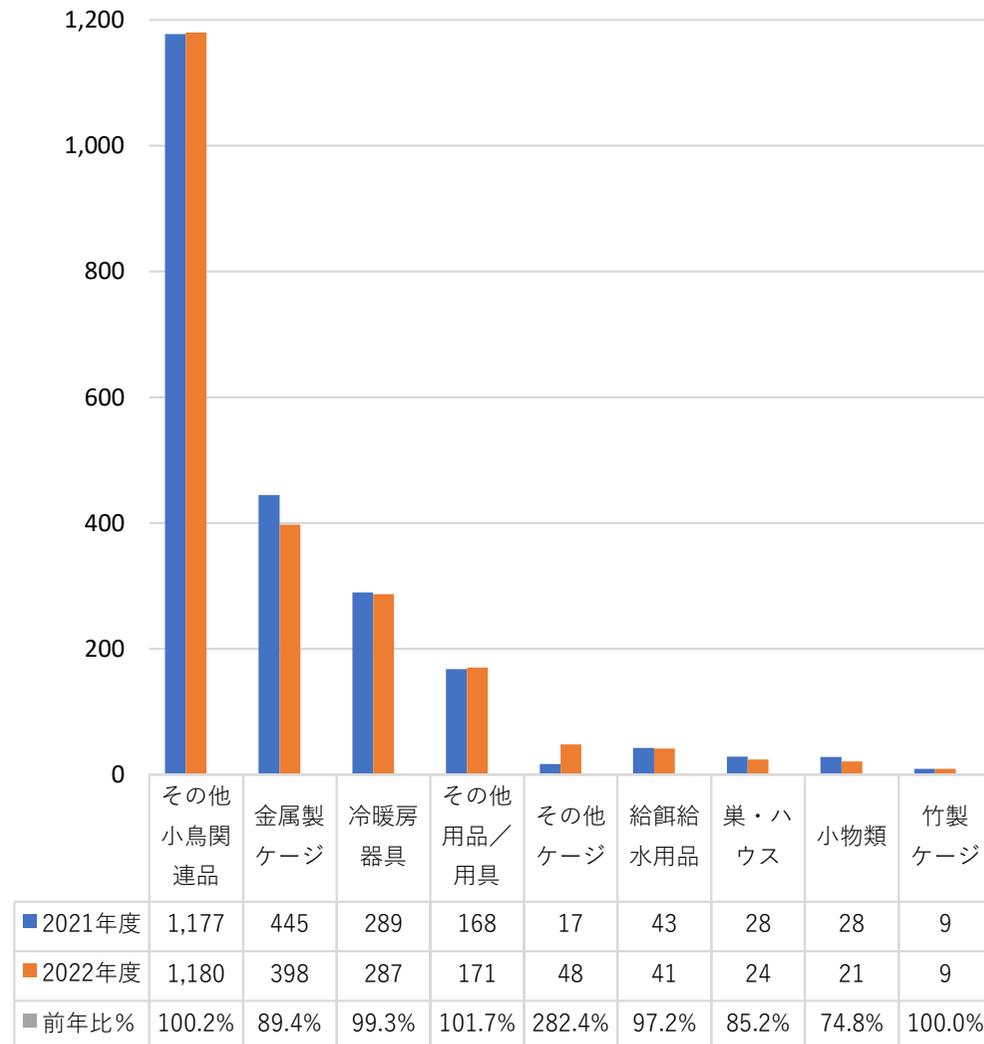
小鳥用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

◇フード全般



◇その他用品

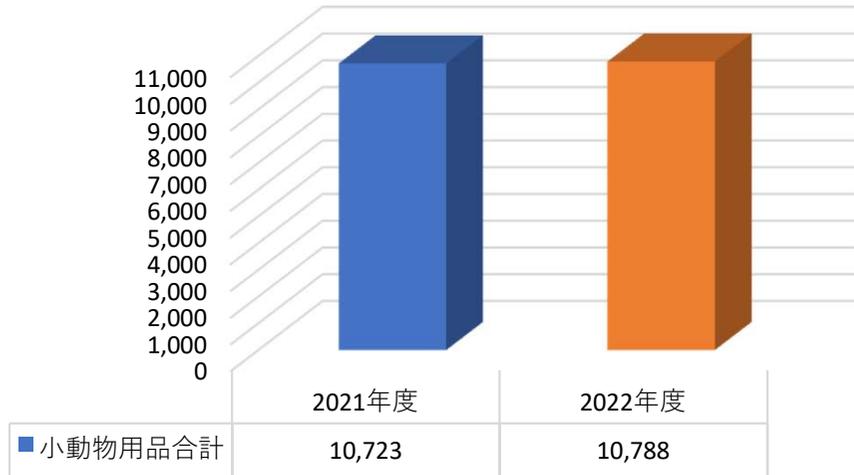


- ※ ブリーダー減少の影響に伴い、販売生体数が前年に続き減少している。
- ※ 鳥インフルエンザの影響が前年から継続し、チャボ・にわとりフードの売上が減少している。
- ※ 生体輸入が滞っている中、野鳥の餌付けは前年に続き伸長している。

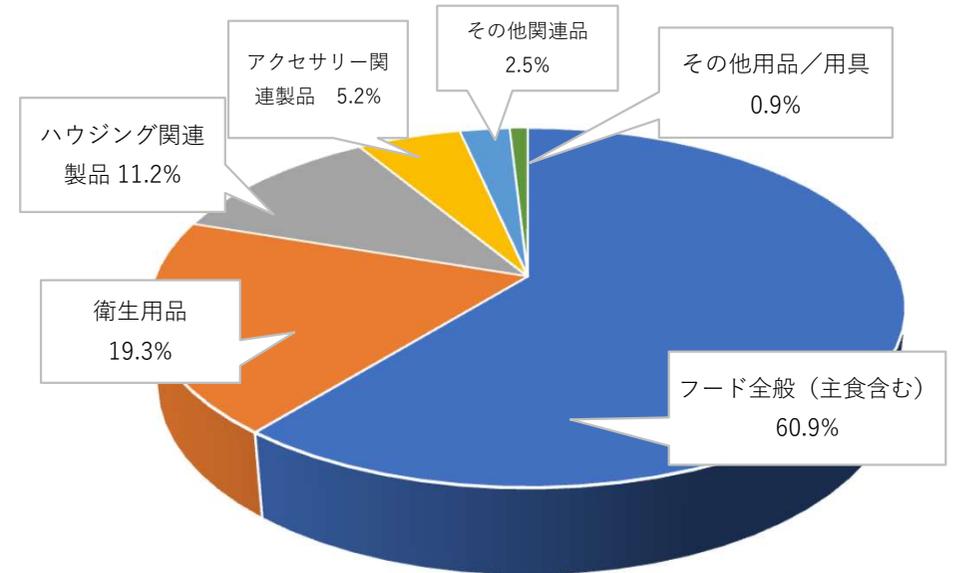
小動物用品に関する統計結果 集計:27社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

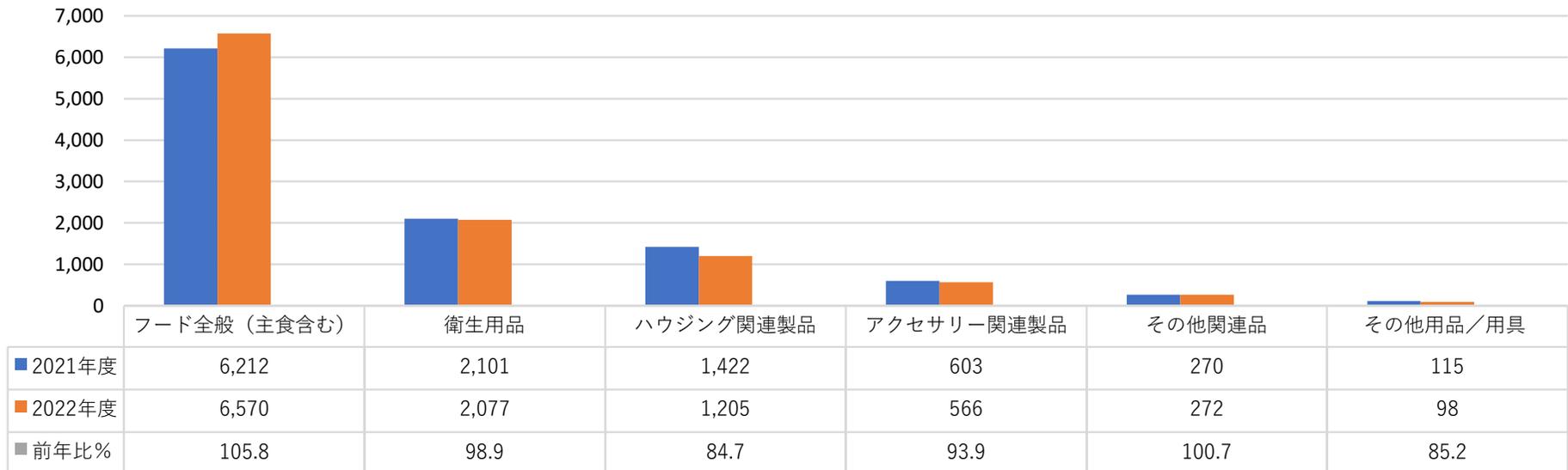
前年度比:100.6%



②2022年度 カテゴリー構成



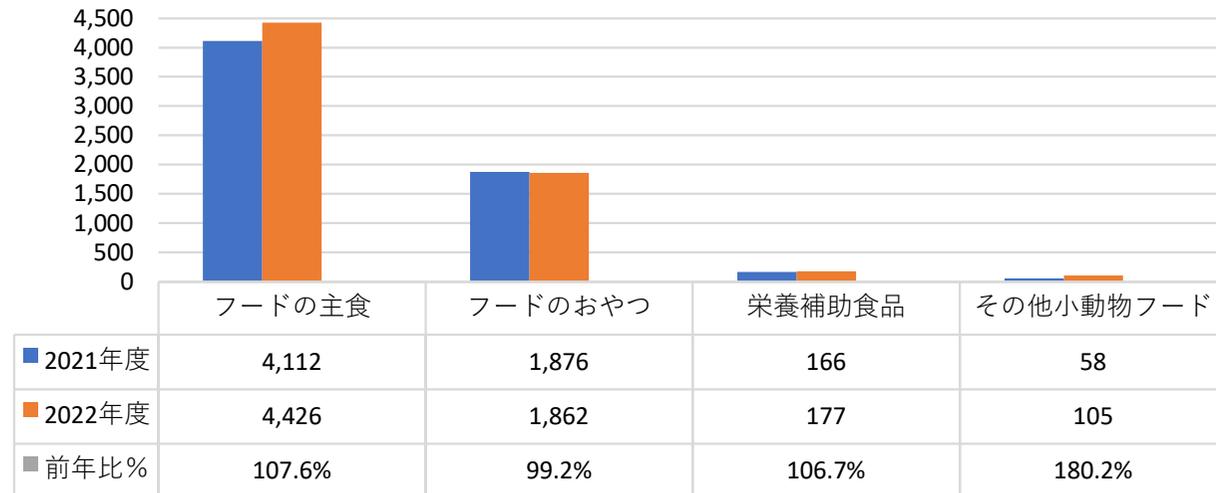
③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



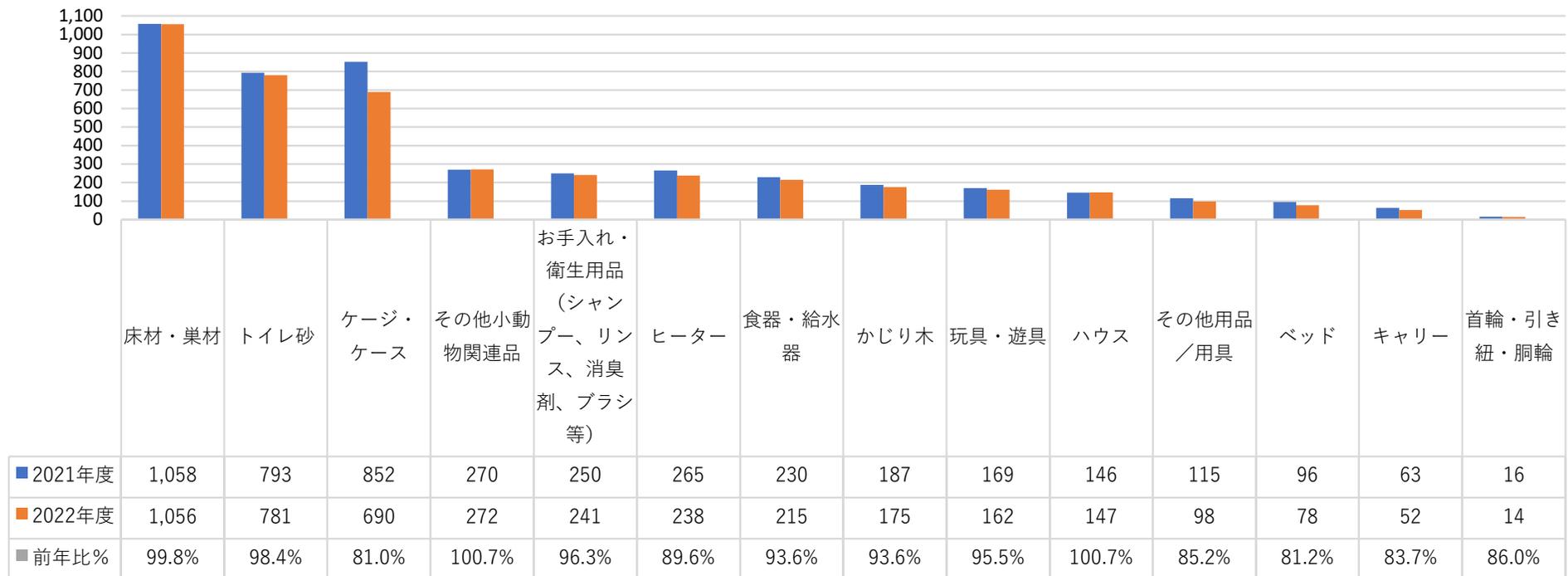
小動物用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)

◇フード全般



◇その他用品

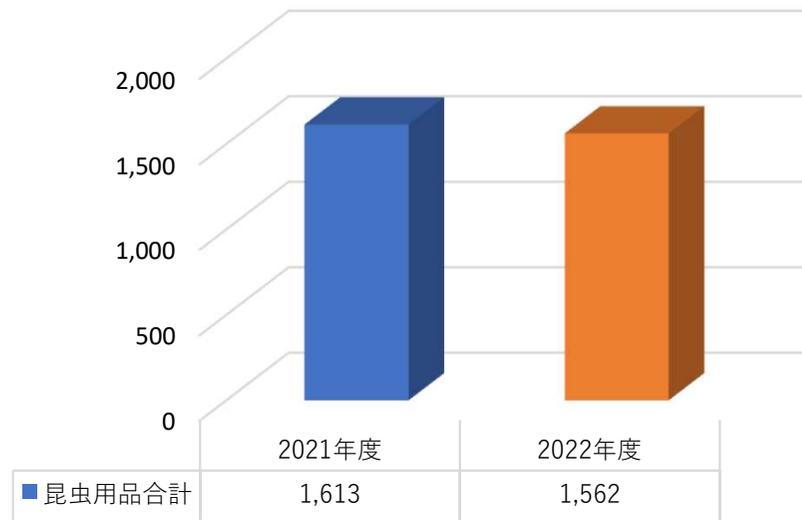


※ 巣籠り需要が落ち着き、新規飼育者は減ったものの、市場全体金額は昨年を維持(2021年前年比113%。2022年前年比109%)
 ※ チンチラ、デグー等ウサギ、ハムスター以外の飼育者が増える。

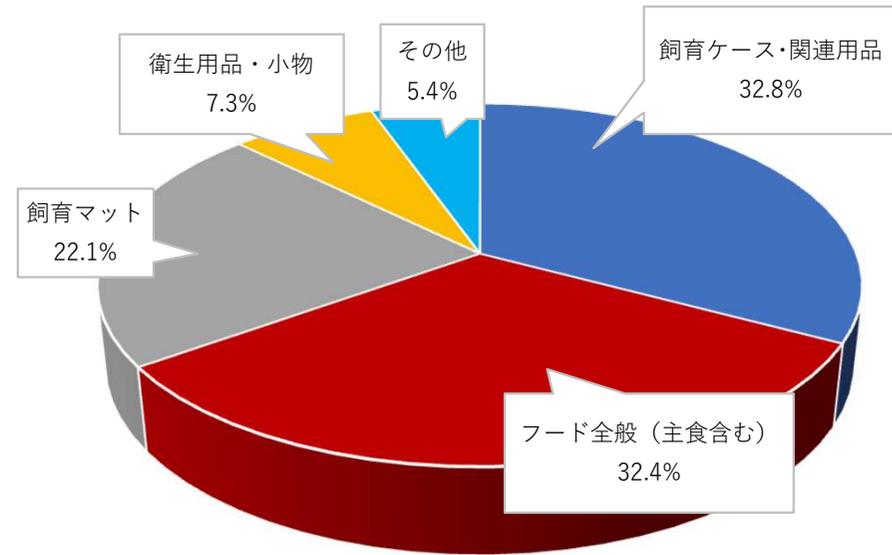
昆虫用品に関する統計結果 集計:9社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

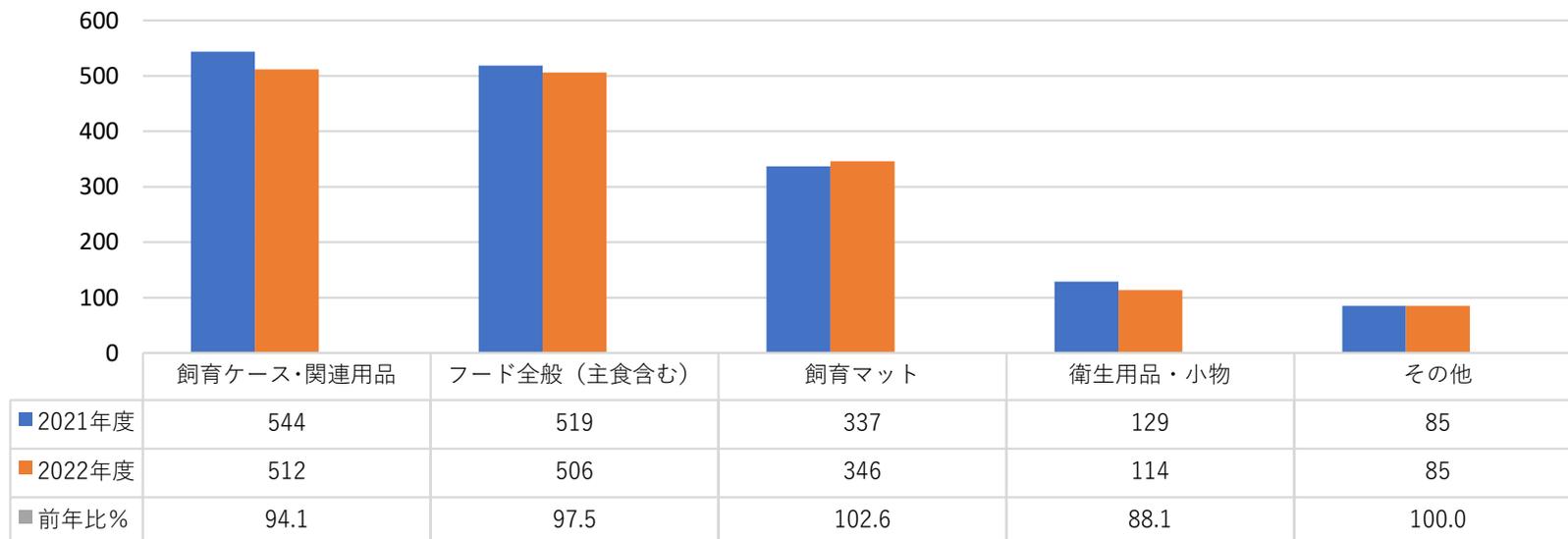
前年度比:96.8%



②2022年度 カテゴリ構成

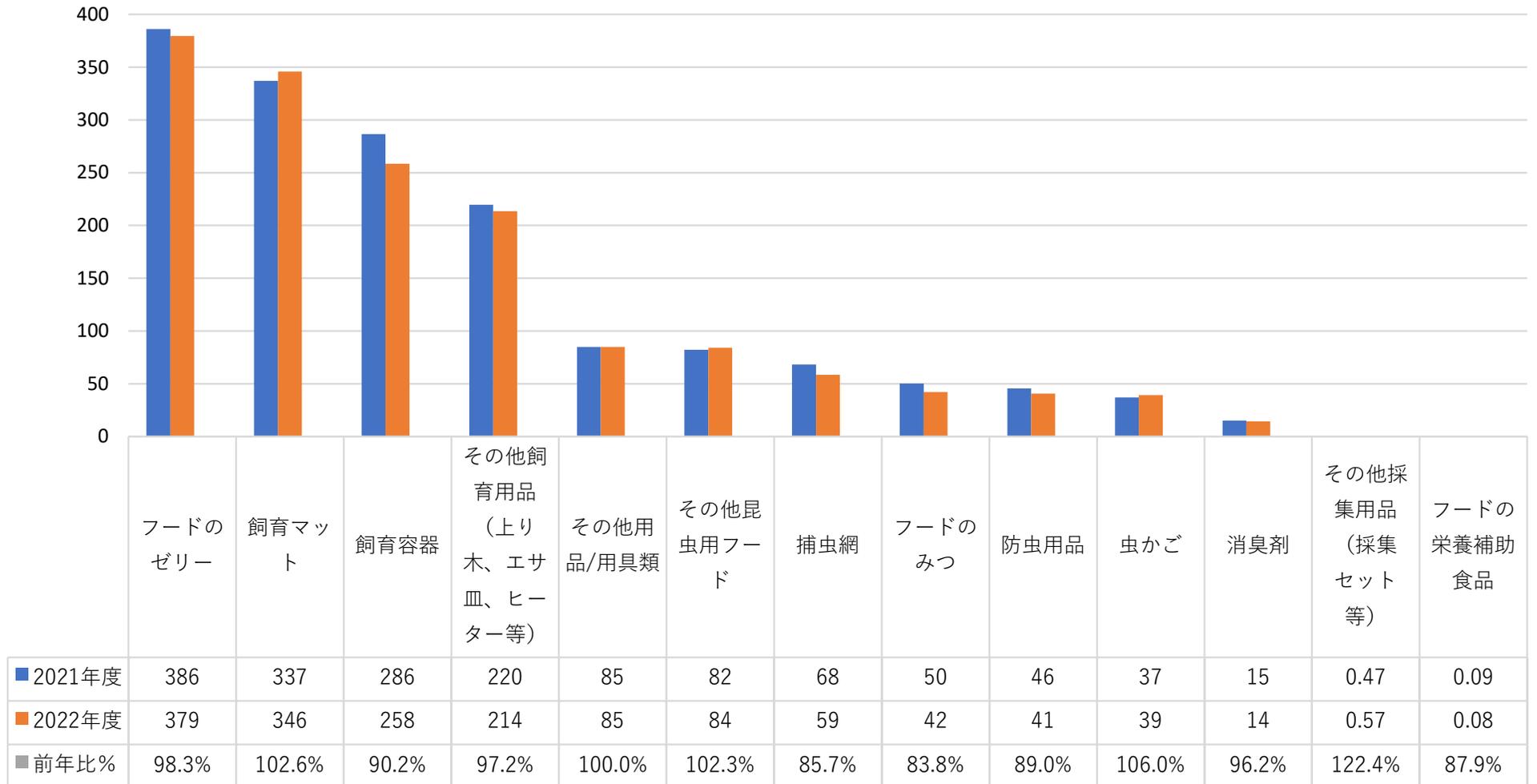


③カテゴリ別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



昆虫用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)



※ 2021年はコロナの影響で巣籠り需要(新規ユーザー)が増え2020年対比で大きく増加した。

※ 2022年～2023年に関しては新規ユーザー様の需要は一旦落ち着きコロナ前の市場に戻りつつあるが外国産昆虫の入荷に関しては今後も不安定と思われる。

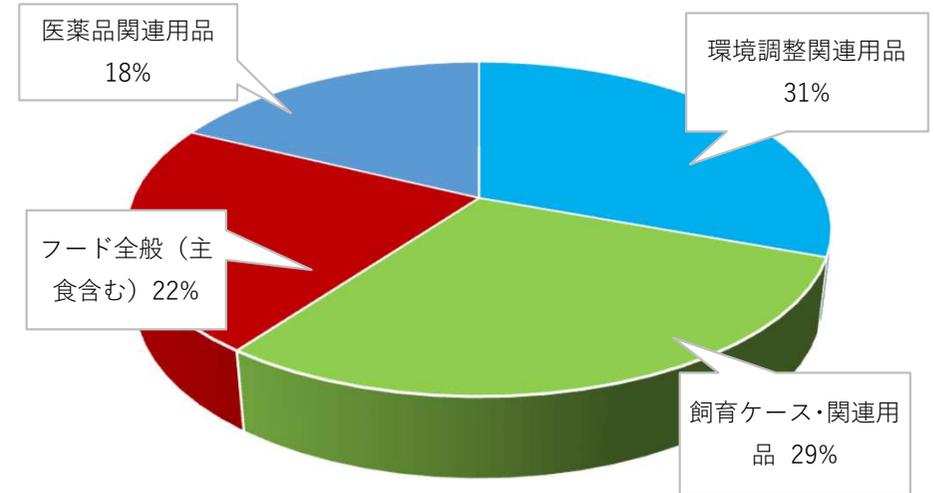
爬虫類・両生類用品に関する統計結果 集計:7社

①出荷金額合計の年度比較(単位:百万円)

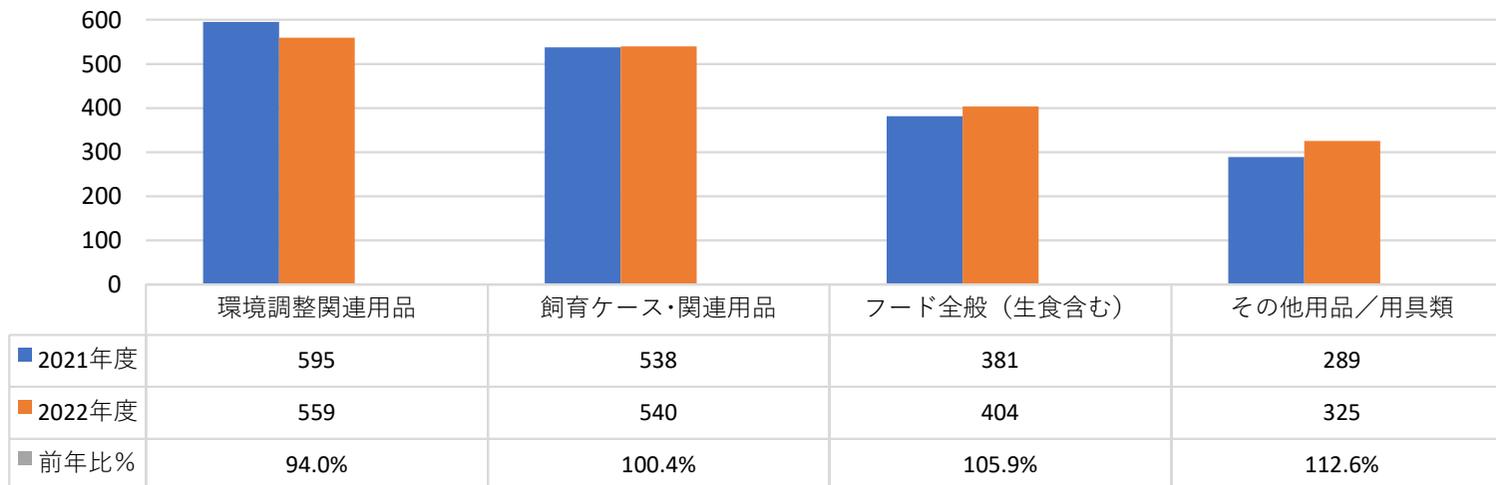
前年度比:101.4%



②2022年度 カテゴリー構成

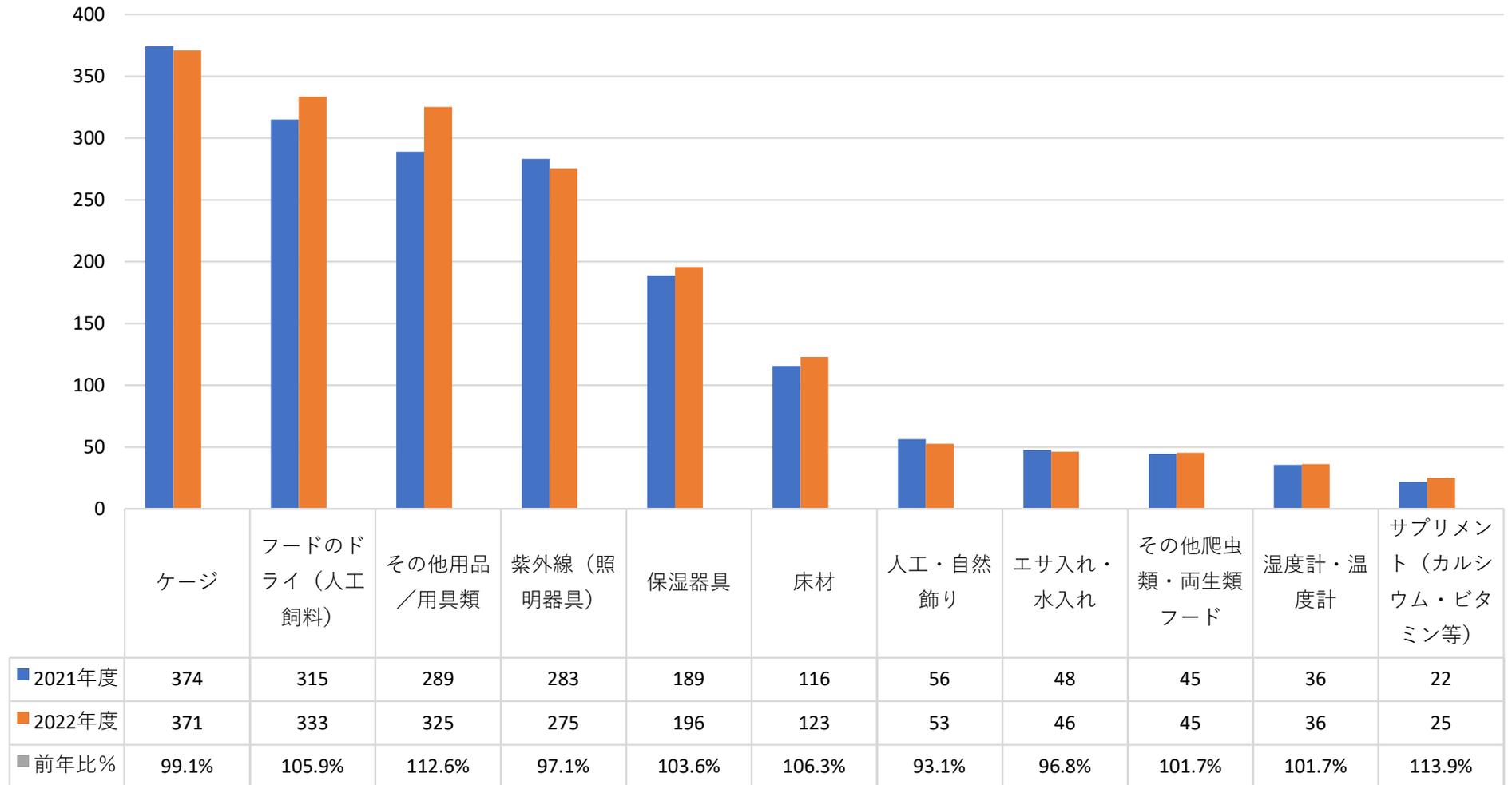


③カテゴリー別出荷金額の年度比較(単位:百万円)



爬虫類・両生類用品に関する統計結果

④商品分類別の年度比較(単位:百万円)



※ 直近6年、全般的に売上増加率が高く、若年層、単身女性の飼育者が増加したものの昨年は横ばい。

※ 人工飼料(レオパ、フトアゴ)が増えた事により、フードは105%と伸長。